

東町かわら版

第21号:平成31年2月 日

発行:日光東町まちづくり推進委員会

委員長 春日 武之

事務局:日光市建設部都市計画課都市計画係

TEL:21-5102

「日光東町まちづくり推進委員会委員長の就任あいさつ」

日光東町まちづくり推進委員会 委員長 春日 武之



私は、平成29年5月の総会時に委員として組織に加入し、同年10月の委員会にて何と委員長を拝命しました。もとより浅学非才の身、「まちづくり」の知識はゼロでありましたが、委員会の皆様やワーキンググループの方々のお力を頂きながら現在まで務めてまいりました。

「まちづくり」に関しては、街づくりの先進地の川越の街づくりの担当者を訪れてノウハウを聞き、川越街並み委員会が月1回で開催する会議にも特別に参加させて頂く等、勉強の最中であります。

日光市は平成17年1月に全国の先陣を切って景観行政団体となり、日光市街並景観条例が作られ、それに基づき「日光東町まちづくり規範」、平成26年「同深化版」が作成されました。規範の指針は「祭り（いのり）のまち」。世界遺産「日光の社寺にふさわしい世界に誇れる門前町となるよう、また、後世に語り継がれる「祭りのまち」となるよう推進してまいりたいと思います。地域の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。





「川越町づくり委員会への視察に参加して」

日光東町まちづくり推進委員会 アドバイザー 阿久津 新平

川越市は年間 700 万人を超える観光客が訪れる町並みとして全国から注目されている。しかし、1960 年代頃は、商店街に人通りが少なく寂れていた。80 年代に市民は「川越蔵の会」を設立し、商店街活性化に取り組んだ。83 年に実行部隊として「町並み委員会」を発足し、今日の川越市の町並みを整備してきた。この輝かしい実績をもたらした「町並み委員会」の会議を視察するために、平成 30 年 11 月 26 日に第 99 回「川越町並み委員会」にゲストとして参加した。他に、文化庁、埼玉県教育局、川越市文化財保護課、大学生のゲストがいた。議題は暖簾や看板の件、梁下の土台塗り直し、屋根材の変更（瓦から板金）など細部について検討された。また、町づくり規範の改定は継続して検討されていて、その審議についての報告があった。

今回の視察で学んだことは、①「町並み委員会」は商店街、学識経験者、専門家、行政、関連自治会などの 25 名が参加し、社会の変化に対応しつつ質の高いまちづくりを市民の合意のもとに実施していること。②発足以来 30 年以上継続していることは、まちづくりに重要な人材育成になっていること。③市民のまちづくり意識のモチベーションが高まったこと。日光市のまちづくりに於いて「町並み委員会」の組織や活動は、大いに参考になり、採り入れられれば、素晴らしいと思う。

